

001 健

	読書日 2012年	タイトル	著者 出版社	表紙	コメント	評価
1	0219- 0223	流星ワゴン	重松清 講談社 1,785円 (地区センタ ー)		妻の不倫、子供の家庭内暴力、自身のリストラなどで家庭崩壊を嘆き自殺を思う男の前に止まった一台のワゴン。乗っているのは事故で亡くなった父親と息子。未練があるため成仏できない親子は男を乗せて男の今を招いたきっかけとなる過去のポイント、ポイントに連れてゆく。その度に妻、子供、自分の父親との重要な場面に遭遇しながら何も変えられない男。情けなく切ないがラストのささやかな希望に救われる。結局、自分を変えるのは自分しかない	
2	0223- 0224	東野圭吾公式 ガイド 読者1万人が選んだ 東野作品人気ラン キング発表	東野圭吾作家生 活25周年祭り実 行委員会 講談社文庫 400円		「麒麟の翼」、「真夏の方程式」、「マスカレード・ホテル」の三社連合企画の公式ガイドブックに付けられた東野作品人気投票はがきの集計結果と分析。読者からの短評も多数掲載。第1位は「容疑者Xの献身」。自分もこの作品は作風的に作者のターニング・ポイントになるものと評価していたので納得。	
3	0224- 0226	BT' 63【上】	池井戸潤 講談社文庫 620円 (古300円)		心を病み妻に去られた男が父の遺品を整理するうちある遺品に触れて意識だけが過去にタイムスリップする。 時は東京オリンピックを翌年に控えた1963年。重苦しい時代を生きる父親の視線と自分の視線がクロスオーバーする。 運送会社に勤めていた父親が巻き込まれる事件。呪われたボンネット型(BT)トラックBT21号の威容な存在感が不気味。	
4	0226- 0227	BT' 63【下】	池井戸潤 講談社文庫 660円 (古300円)		昭和30年代と現代を父と息子の視点が何度も交差する。無口で厳格だった父親。自分には見せなかった生き生きとした父に興味を持ち当時の事を調べてゆく。そしてその事が自分のルーツを知ることになり自分を取り戻すきっかけになる。風呂敷を広げたわりには結末が都合良すぎるがハッピーエンドの方がいい。	
5	0228- 0301	火神録 考古探偵 一法師全の記憶	化野燐 角川文庫 540円		この本は考古探偵シリーズの4作目ということだが前3作は読んでいない。うまい具合に今回は主人公の一法師全の過去編。今風でいえばエピソード0といったところか。京都で起きた不審火事件に殺人事件を通して史跡や街の起源、由来が書かれていて興味深いが一法師の時代的な口調、ヒロインのキャラにはついていけない。	

6	0302-0304	ルーズヴェルト・ゲーム	池井戸潤 講談社 1,680円		「ルーズヴェルト・ゲーム」とは野球は8-7のゲームが一番面白い。特に7-0からの逆転勝ちが最高と語った故大統領の言葉が由来。 下町ロケット同様技術力はあるが経営に四苦八苦している中小の会社を吸収しようとする大手メーカー。奇しくも両社は野球部も敵対関係にあり中小野球部の監督は主力投手と共に大手側に引き抜かれており経営面でお荷物だった野球部は宣伝効果をも失う。会社の生き残り、野球部の存続を賭けて二つの戦いが始まる。 野球部と会社の危機を交互に描きラストは都合が良すぎるけど爽快感は味わえる。
7	0305-0308	くじら組	山本一力 文藝春秋 1,785円 (地区センター)		古き時代のくじら捕りの生活・実態が詳しく書かれていて興味を持った。鯨が俳句では冬の季語にあたる理由も良くわかる。 くじら船と船乗りたちは海では最強であり幕府から戦力になりうるとして警戒していた事も面白い。表紙の絵のように冬の海に飛び込み打ち込んだ銚子を足場に鯨にまたがって止めを刺す。あるきっかけで人や船を襲うことを覚えた鯨は突如沖合に姿を見せた蒸気船の威容にちなんで黒船と名付けられる。スケールは白鯨に遠く及ばないが鯨との果し合いのような展開も。
8	0309-0310	おさがしの本は	門井慶喜 光文社 1,600円 (鶴見図書館)		財政難から図書館を廃館させるべく送り込まれた新館長と本を愛する図書館員和久山との対決。本に関する蘊蓄、本の探し物を依頼する側にも記憶の間違い・思い違い・記憶のすり替えの可能性があり一筋縄ではいかない苦労話。 図書館の存在意義を問う対決シーンも見もの。
9	0311-0312	沈底魚	曾根圭介 講談社文庫 660円 (川崎病院 つつじ文庫)		病院の待ち時間に病院の文庫から借り出して読む。公安スパイもので文章がうまく読みやすいが敵対関係を複雑にしすぎているところが面白さを半減し無理な結末にしているような。長年、正体を知られることなく潜んでいるスパイとタイトルの名はマッチしていて序盤は面白い。
10	0313-0314	ST 警視庁科学特捜班 黒の調査ファイル	今野敏 講談社文庫 600円 (川崎病院 つつじ文庫)		これも病院の文庫から。 初めて読む作家だけど読みやすい。 主役は癖のある5人の分析員。 準主役は5人の管理職で若きキャリアの警部と捜査一課のベテラン菊川警部補。 5人の名前には青赤黄緑黒を表す文字が入っていてそれぞれ特殊な専門知識・特殊能力を備えている。今回の主役は黒崎、無口で武芸のスペシャリスト。異常な嗅覚を持ち専門は化学。風貌からスチーブン・セガールがモデルだと思う。 舞台は歌舞伎町でチャイニーズマフィアの抗争ネタ。

11	0315-0316	傍聞き	長岡弘樹 双葉文庫 550円		傍聞き(かたえぎき)という聞きなれない言葉に反応して購入。又聞きに近い言葉。頁は薄いけど中身の濃い短編4編。日常起きそうな出来事の中に不可解な行動や事件が起き意外な結末に持っていくところが面白い。「傍聞き」「迷走」「迷い箱」「899」
12	0316-0317	天才たちの値段	門井慶喜 文藝春秋 1,800円 (鶴見図書館)		キャッチーな出だし。大学の美術講師佐々木がワトソン役、ホームズが天才美術探偵・神永美有。美術品の鑑定を巡り佐々木の秀才的な蘊蓄・鑑定の上をゆく神永の鑑定対決が売り。細野不二彦「ギャラリー・フェイク」に近い美術ミステリー。
13	0318-0319	心霊特捜	今野敏 双葉社 1,365円 (鶴見図書館)		内容がかなり軽い。警察がまともに相手にしない案件を厄介払いにするために作ったのが心霊特捜。ほかの作品と違うのは捜査員に強力な能力があるわけではなく見える程度。会話ができるわけでもないので現れる理由を推理し原因となる事件を解決することにより成仏してもらうパターン。
14	0320-0322	三匹のおっさん	有川浩 文藝春秋 1,680円 (地区センター)		自分の年代だと連想するのは丹波哲郎、平幹二郎、長門勇の「三匹の侍」だがキャラクターの特技から高橋英樹、役所広司、春風亭小朝の「三匹が斬る」を現代版にアレンジしたのは明らか。還暦を過ぎた爺さんたちが「ジジイと呼ばれるにはまだ早い」とばかりに街の治安・浄化に乗り出しトラブルを解決する。柔道家、剣道家、技術屋で時に家族を巻き込む事件に。元が時代劇だから構成がマンネリだけど安心して読める。
15	0322-0324	隠蔽捜査	今野敏 新潮社 1,680円 (地区センター)		始めはいかにも官僚といった感じのエリートが主人公で鼻持ちならぬ印象。同期の捜査部長の好印象が設定ミスを思わせたがいつの間にかおかしな方向に。共感しづらいところもあるが官僚としての誇り、職権を私利私欲のためでなく本来の役割に最大限に活用しようとする態度は立派。自分の息子の犯した過ち、警察内部の不祥事をめぐってそれぞれの思惑が交錯する。

16	0324-0326	陽だまりの偽り	長岡弘樹 双葉文庫 630円		「傍聞き」が評判を取って初期作品の短編を文庫にしたもの。「陽だまりの偽り」「淡い青のなかに」「プレイヤー」「写心」「重い扉が」の5編読みやすいし登場人物の心の動きを丁寧に書き込んでいるので引き込まれるイラストに感心するが読後、冷静に考えれば現実的じゃない印象も。
17	0327-0327	生麦魚河岸 金指栄一写真集	金指栄一 現代写真研究所出版局 2,625円 (鶴見図書館)		両親が生麦の出で親戚は今も生麦の魚河岸通りで生計を立てている。本書の中にも親戚の営む店や親類がかなり掲載されていたので購入。生麦は工場建設の埋め立てで漁業権を放棄したのでかつての面影は無い。撮影は1・2年前のものでもっと昔の時代の写真を撮影して残しておいて欲しかった。
18	0327-0329	極北クレイマー	海堂尊 朝日新聞出版 1,680円 (鶴見図書館)		題名から北朝鮮とか戦士ものを連想したが作家名を見て医療ものとわかった。財政破綻寸前の極北市。その市民病院を舞台に地方医療のあり方、さまざまな問題、医療事故を扱った作品。癖のある登場人物が多く病院内の対立、市役所と病院、議会との複雑な対立。赴任してきたドクターが見た無駄な施設など破綻当時の北海道夕張市を思わせ、作中では提示された問題がほとんど解決してないのが現実的でやるせない。
19	0330-0331	六つの手掛り	乾くるみ 双葉文庫 630円		ミステリーも突き詰めていくとパズルになってしまう。読み物とするには味付けが必要でここにはチャールズ・チャップリンそっくりの手品を趣味にした探偵が出てくる。6編の短編が収録されているが題名の数字がカウントダウンになっているのが趣向。「六つの玉」「五つのプレゼント」「四枚のカード」「三通の手紙」「二枚舌の掛軸」「一卷の終わり」となっているのが洒落ている。
20	0401-0401	隠蔽捜査2 果断	今野敏 新潮社 1,575円 (鶴見図書館)		隠蔽捜査シリーズの2作目。前作で検察庁を追われ大森署の署長になった竜崎。前作の人間関係も絡み立場が変わって検察庁からの権力を傘に着た横槍にも得意のKYで動じない。舞台となる地名に土地鑑があるので元々読みやすくすんなりイメージできる作品だった。

21	0402-0403	あした咲く蕾	朱川湊人 文春文庫 630円		「花まんま」や「かたみ歌」と同型の短篇集。相変わらずの不思議でレトロな下町ファンタジー7編。この文庫が一番読後感が良い。昭和30年～40年代を描くにしてもさりりと固有名詞を使うだけで時代を思い起こさせるところがいい。独特の哀愁感と幸福感を味わえる。
22	0404-0404	パラダイス・ロスト	柳広司 角川書店 1,575円		ジョーカー・シリーズの3作目。舞台は主に海外。第二次大戦前の世界情勢と日本の参戦・作戦行動の経緯が歴史事実に基づいて描かれている連作短編集。D機関のスパイ活動は成功しても歴史を変えることはできないのが作品の制約。今回はD機関の結城中佐の正体を暴こうと企てる親日家を装う外国人スパイも登場。
23	0405-0406	膠着	今野敏 中央公論社 1,733円 (鶴見図書館)		今野敏の作品は読みやすく肩が凝らないのでこのところハマっているが図書館では貸出中が多い。たまたまあった本を借りたがこれは警察ものじゃなかった。営業不信の糊メーカーが起死回生の商品としてできあがったのが「くつつかない接着剤」。これの扱いをめぐる社内は紛糾。失敗がライバル会社に知られば窮地に。新人営業マンの思いを軸に異色な展開。
24	0406-0407	ナミヤ雑貨店の奇蹟	東野圭吾 角川書店 1,680円		東野圭吾の作品としてはしっとりとしたファンタジー小説に仕上がっている。5作の連作ものだが各作品にしっかりラストへの伏線が張られている。作品ごとに感動があるけれど最後の作品でクライマックスを迎えるあたり良くできた作品。
25	0407-0408	父・手塚治虫の素顔	手塚眞 新潮文庫 662円		手塚治虫はコミック界のトップランナーであり、あらゆる漫画家が手塚治虫を目指した。手塚治虫はそうした漫画家たちの面倒を惜しみなく見て関わってきたのでエピソード本も多い。しかしながら息子の眼からというところ初めて知る事実も多く興味を惹く。又、父の素顔と言いながら自身の事も結構書かれているので親と子の考え方、目指した方向の違いなどが理解でき興味深かった。

26	0409-0410	鏡の偽乙女・薄紅雪華文様	朱川湊人 集英社 1,680円 (鶴見図書館)		舞台は大正三年、東京。 画家を志し、家を飛び出す榎島風波(ふうわ)と闇を幻視する美貌の天才画家、穂村江雪華(ほむらえせつか)が出会う出だしが良い。 雪華の下宿する根津・蟋蟀館には異形の者たちが出没。時代の雰囲気や実在した人物を思わせる登場人物を配するあたりは荒俣宏の伝奇小説風。連作5編。怪異と浪漫が似合う時代が作品によく合っている。
27	0411-0414	禁断 横浜みなとみらい署暴対係	今野敏 徳間書店 1,890円 (鶴見図書館)		ハマの用心棒と呼ばれる暴対班の警部が主人公。ハードボイルド系の作品だが日本じゃ探偵は現実的じゃないので警察ものにアレンジした感じ。ヒロインにからむ事件を解決する話だがストーリーはさほどでなく主人公の言動、雰囲気を楽しむ作品のようだ。シリーズ2作目で前作は未読。
28	0414-0416	プリズム	百田尚樹 幻冬舎 1,575円 (古500円)		作品を読むとタイトルのつけ方に納得するが内容は恋愛ものに近さほど面白くない。むしろ心療内科的な内容のほうに興味があった。 多重人格者を扱った過去の作品も紹介されているが二重人格ならまだしも「24人のピリー・マリガン」(ダニエル・キース)なんてかったるそうで好きな作家だがなかなか読む気になれない。
29	0417-0419	ST警視庁科学特捜班	今野敏 講談社文庫 680円 (古100円)		ST科学特捜班ものの第1作。 前記10のとおりメンバーは苗字に色が入った五人の分析員。それぞれ特殊能力と専門知識を有するところはゴレンジャーのもじり。 班長は若きキャリアで癖のある5人を使いこなすのに四苦八苦。加えて現場に赴けばキャリアを嫌う刑事や警察内部の確執に悩まされる。 TVドラマに適した作品。
30	0420-0420	ST 沖ノ島殺人ファイル	今野敏 講談社ノベルス 840円 (鶴見図書館)		ST科学特捜班ものには初期作品、と色シリーズ (分析員一人ずつ焦点を当てたもの)、伝説シリーズがある。古本屋で安く買ったり図書館で借りられた順番に読んでいたので読む順番が前後してしまう。 沖ノ島で港湾工事中に見つかった水死体。古代からの因習により島で起きた事を口外しない、島の物を持ち出さない、許可無く立入禁止などタブーで守られている神の島。事件をどう解決するかがテーマだが肩透かしの結末。

31	0421-0422	花の鎖	湊かなえ 文藝春秋社 1,400円 (地区センター)		並列でストーリーが進むのはこの作家の常套手段。今回は雪月花の名入りの梨花、美雪、紗月を中心に3つのストーリーが交互に語られる。単純に並列と思って読んで行くと混乱。ネタバレになるが友人を裏切り成功を納めた家族と裏切られた家族の三代に亘る物語が時系列になっていてタイトルの鎖の意味がわかる。不遇な人生の中にも周りの人達の優しさが伝わってくる良い作品。
32	0421-0422	ST警視庁科学特捜班 毒殺殺人	今野敏 講談社文庫 650円 (古100円)		STシリーズ第2作。鑑識と仕事がダブルST特捜班の存続を賭けて毒殺事件の解決に乗り出す。東京・新宿の公園で発見された変死体と宗教に似た告発セミナーの存在を絡めたサスペンス仕立て。今回は実家が寺で僧籍を持つ山吹(黄)が中心になり専門の薬物知識を駆使して事件を解決する。
33	0422-0422	黒いモスクワ ST警視庁科学特捜班	今野敏 講談社文庫 600円 (古100円)		STシリーズ第3作。ロシアの捜査当局と情報交換のためモスクワへ出張。当初は班長とリーダーの赤城の二人だけだったが偶然にもメンバーがモスクワに集結することに。ロシア正教会で起きた怪死事件にラスプーチン伝説が絡むエンターテインメント性の高い作品。
34	0423-0423	ST 警視庁科学特捜班 青の調査ファイル	今野敏 講談社文庫 620円 (古100円)		STシリーズ第4作、色シリーズの1作目 ゴレンジャーをもじったSTの色シリーズ 青山編。プロファイラー、男ながら男も目を見張る美貌の持ち主。心理学、文書鑑定が専門。心霊現象を撮影しようとするスタッフが密室状態の部屋で首を折って死亡。事故死と思われたが心霊者、スタッフの複雑な人間関係、関係者の証言、殺人現場の検証から殺人の可能性を示唆し解決に導く。
35	0424-0424	ST 警視庁科学特捜班 赤の調査ファイル	今野敏 講談社文庫 650円 (古100円)		色シリーズの2作目。 赤城編。一匹狼を気取るがリーダー的資質に富み実質5人のまとめ役。法医学が専門。医療ミスを訴え民事で敗れた遺族が刑事告訴したためSTが捜査を開始する。相手はかつて赤城を追放した大学病院。非常に難関とされる医療ミスの証明に赤城が挑む。捜査の過程では赤城の過去が明らかに。
36	0425-0425	ST 警視庁科学特捜班 黄の調査ファイル	今野敏 講談社文庫 600円 (古100円)		色シリーズの3作目。 山吹(黄)編。僧籍を持ち薬物学が専門。実家が寺のため殺人現場は僧衣のまま現れ読経することもしばしば。職業柄メンバーの中ではいちばん温厚で常識人。密室状態のマンションの一室で若者4人の死体が発見される。皆、新興宗教の信者だったので集団自殺と片付けられたが宗教団体内の人間関係、揺れ動く人間心理を読んだ山吹が他殺の可能性を追求する。

37	0426-0427	FACE 顔	横山秀夫 徳間書店 1,680円 (地区センター)		「傍聞き」だか「陽だまりの偽り」の解説で横山秀夫に似ていると書いてあったので読むことにしたがこれはちよつと違った。 元は鑑識課の似顔絵婦警平野瑞穂の連作短編。今は左遷されて広報に在籍。 左遷の原因、警察組織の矛盾、女性警察官の処遇などの軋轢を細やかに描いている点が良い。
38	0428-0429	ST 為朝伝説殺人 ファイル	今野敏 講談社文庫 610円 (古100円)		本書はタイトルのとおり伝説ものだが勉強しているみたいでいつものようにはすらすら読めない。概ね伝説シリーズは内容的に無理があって面白くない。
39	0430-0504	ダークゾーン	貴志祐介 祥伝社 1,890円 (地区センター)		気がつくと思知らぬ場所にて生死を賭けた戦いを強制される作品は結構ある。一番印象的だったのはフレドリック・ブラウンの「闘技場」だ。名作とあって海外ドラマの一話としてよくリメイクされている。「ダークゾーン」は人がモンスターと化して配置され将棋と「遊戯王」のカード対戦を合わせたような戦いを強いられる。場所は軍艦島をモデルにした異界。ご丁寧に詳細地図が掲載されている。ゲーム好きなので読めるが7番勝負というのもかったるい興味のない人には辛いかも。
40	0502-0503	特殊防諜班 連続誘拐	今野敏 講談社文庫 660円 (古200円)		特殊防諜班というタイトルは内容と合わない。元の題が新人類戦線シリーズだったので当たり前か。ヒトラーは最終世界を制するものはゲルマン民族として新人類を謳っていた。その思想を継承するのが「新人類委員会」。そしてそれを阻害するのが古代より日本に逃れ住み特殊能力を持つユダヤ人の末裔と知り日本へ刺客を送り込む。その末裔は日本政府の知られざる重要人物でもあり超法規的に特殊防諜班が創設され選ば
41	0504-0505	特殊防諜班 組織報復	今野敏 講談社文庫 630円 (古100円)		れたのが自衛隊委員で身体能力が高すぎるため組織からはみ出してしまふ真田。イスラエルのモサドも加わり壮絶な戦いに。冒険活劇に荒唐無稽はつきものだがそれなりに古代史、国際情勢、武器、格闘術などリアルに取り込みそれなりに蘊蓄を吸収しながら読める肩の凝らない作品。
42	0506-0508	かばん屋の相 続	池井戸潤 文春文庫 610円 (古200円)		表題作含む銀行員が絡む5作の短編。いつもは銀行内部の確執や不祥事を解決するものが多かったが今回は中小企業とのやり取りが現実的でカタルシスの得にくい結末のものが多かった。「かばん屋の相続は」京都の一澤帆布の相続争いをモチーフに池井戸的に小説化したもの。山崎豊子なんかはほぼ真実だが池井戸潤の場合は創作もかなり入っているので気になってネットで検索することが多い。

